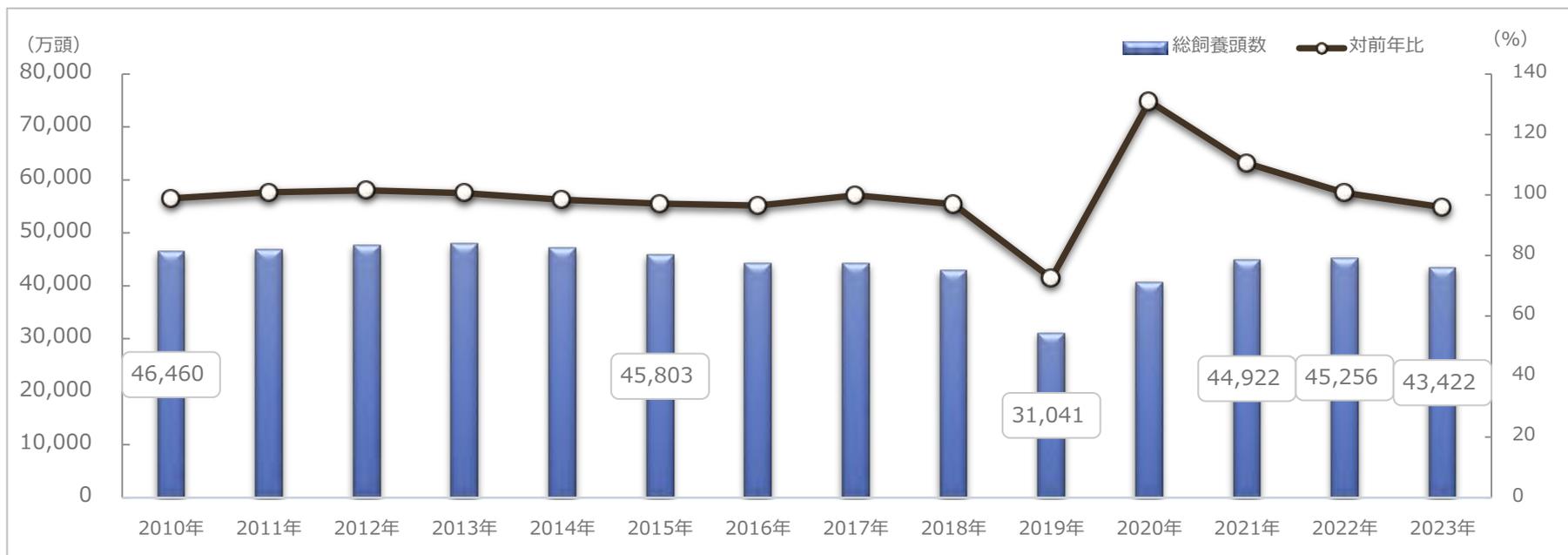


2. 中国の豚肉の需給構造分析

(1) 豚の総飼養頭数

- 中国国内における豚の総飼養頭数は基本的に安定しているが、豚周期（豚肉価格と飼養頭数が約3~4年サイクルで変動する傾向、直近は2018年から2022年4月）やアフリカ豚熱、新型コロナウイルス感染症などの影響を受け、2019年から2020年にかけて一時的に減少した。ただし、2021年には前年比110.5%の44,922万頭に増加し、2022年には45,256万頭、2023年には43,422万頭と、市場の需給に応じて通常の生産に戻っている。
- 中国では各地で豚の生産が行われている。その中でも、総飼養頭数の多い地域は、河南省、四川省、湖南省、雲南省、山東省の5省である。これらの地域は、いずれも農業が盛んで、豊富な飼料資源と広い土地を有しており、豚の飼育に適した環境となっている。

■ 豚の総飼養頭数の推移（2010年～2023年）



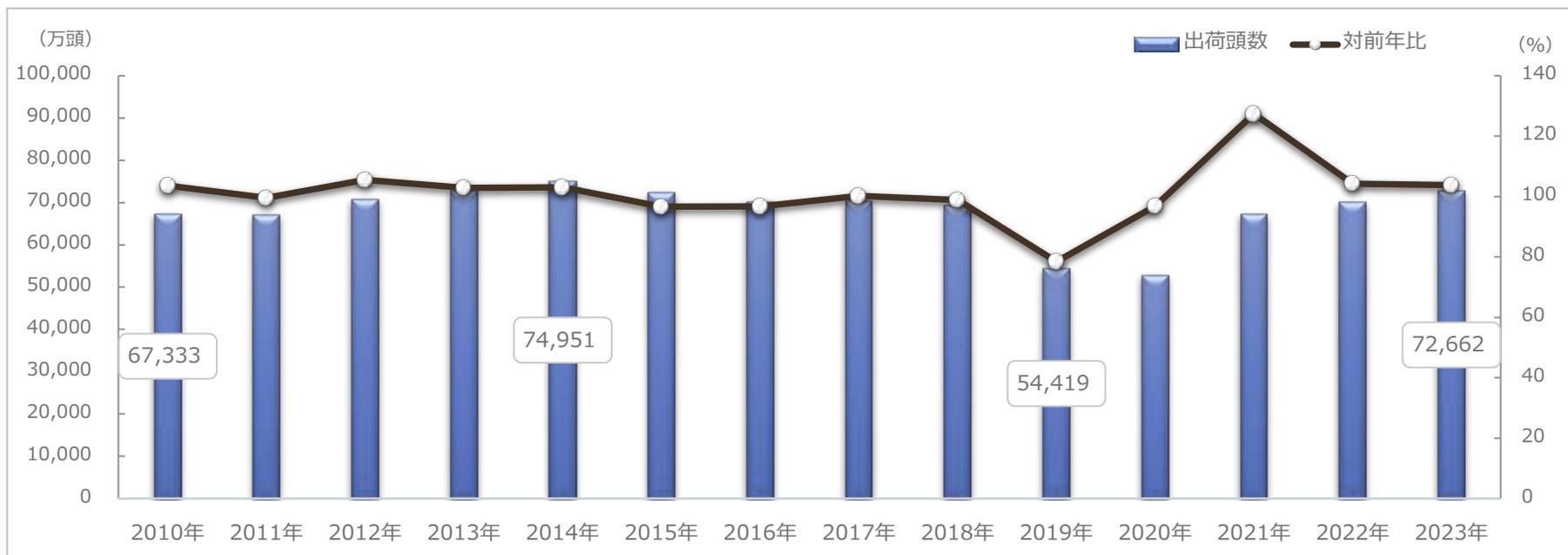
(注) 「豚の総飼養頭数」は、年末に飼われている豚の総頭数を指す。これには、15kg以下の子豚、育成中の肉豚、種豚（雌、雄）が含まれている。

(出所) 中国国家统计局（National Bureau of Statistics of China、NBS）のデータに基づき作成。

(2) 肉豚の出荷頭数

- 肉豚の出荷頭数は、自家で屠畜された肉豚の数及び他者（企業や個人）に販売された肉豚の総数を指す。ただし、販売された子豚や育成豚、種豚の数は含まれていない。
- 2018年のアフリカ豚熱や2019年のコロナ感染症の拡大などにより、国内の豚出荷頭数は一時的に大きな変動があった。しかし、2021年以降は徐々に回復し、2023年においては肉豚出荷頭数が前年比3.8%増の72,662万頭となり、2010年以来の2番目に高い水準に達している。

■ 肉豚の出荷頭数の推移（2010年～2023年）



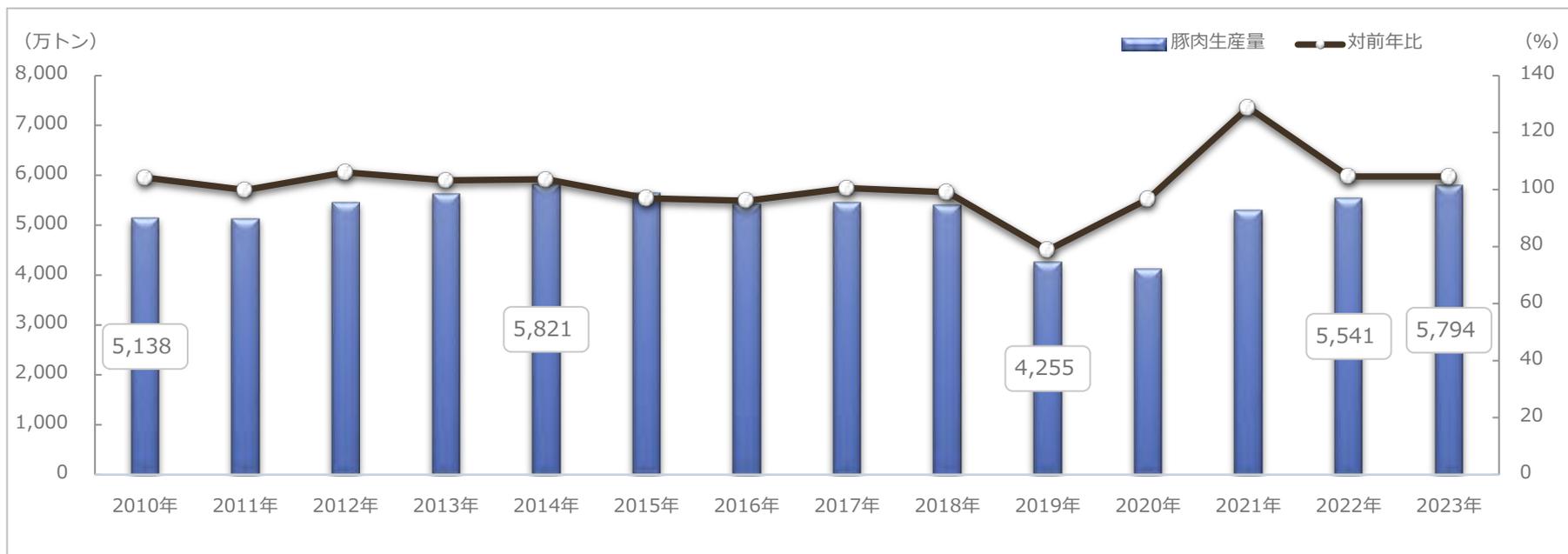
(出所) 中国国家统计局のデータに基づき作成。

(3) 豚肉の生産量

- 中国の豚肉生産量は、基本的に安定している。豚周期（豚肉価格と飼養頭数が約3～4年サイクルで変動する傾向、直近は2018年から2022年4月）やアフリカ豚熱、新型コロナウイルス感染症の影響により、2019年から2020年にかけて国内の生産は一時的に減少したが、2021年以降は回復の兆しを見せ、2014年以来の高い水準に達した。
- 2021年9月に発表された「生豚の生産能力の調整制御実施プラン」（暫定）では、2020年～2025年の間に全国

- の豚肉生産量が5,500万トンを通年の平均の生産量として示されている。2023年の実績は5,794万トンであり、この数字は国の想定値を上回っている。これは2023年の豚の市場価格の下落や豚生産者の経営悪化の一因となった。
- 2023年に中国の食肉全体（家畜肉、家禽肉）の生産された量は9,641万トンで、豚肉が全体の60.1%を占め、最も多く生産された肉類である。

■ 豚肉の生産量の推移（2010年～2023年）



(注) 豚肉生産量 = 肥育豚出荷頭数 × 1頭当たりの平均生体重量 × 枝肉歩留り率

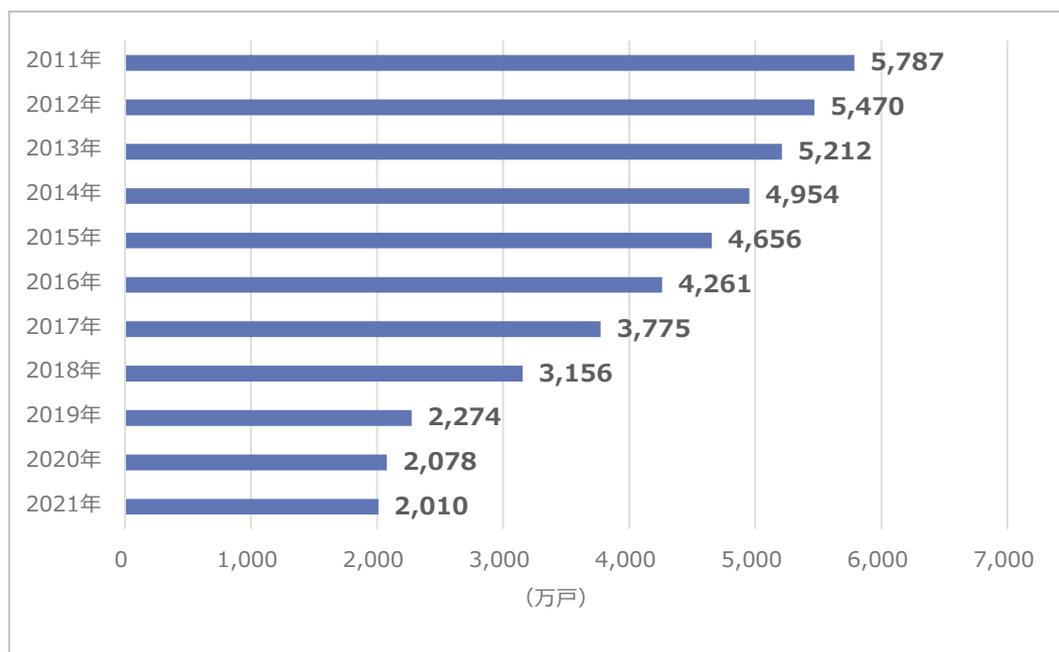
(出所) 中国国家統計局のデータに基づき作成。

(1) 肉豚の飼養戸数

- 2021年末の肉豚飼養戸数は、年50頭未満出荷する生産者の急減により、2011年の35%まで減少しました。
- 2021年の飼養戸数構成を見ると、年50頭未満出荷する飼養戸数が全体の93.5%を占め、一方、年500頭以上出荷する飼養戸数は1%程度にとどまっている。
- 近年、環境保護政策の強化、耕作地の不足、アフリカ豚熱などの伝染病の増加、生豚価格の急激な変動、食品安全対策の加速などが養豚業界に影響を与え、小規模生産

者の撤退が顕著になっている。この結果、養豚産業は標準化、規模化、現代化が進んでおり、大規模農場による効率的な生産体制が確立されつつある。

■ 肉豚の飼養戸数の推移 (2011年～2021年)



(出所) 各年次の『中国畜牧獣医年鑑』のデータに基づき作成。

■ 肉豚の飼養戸数の構成 (2021年)

単位：戸、%

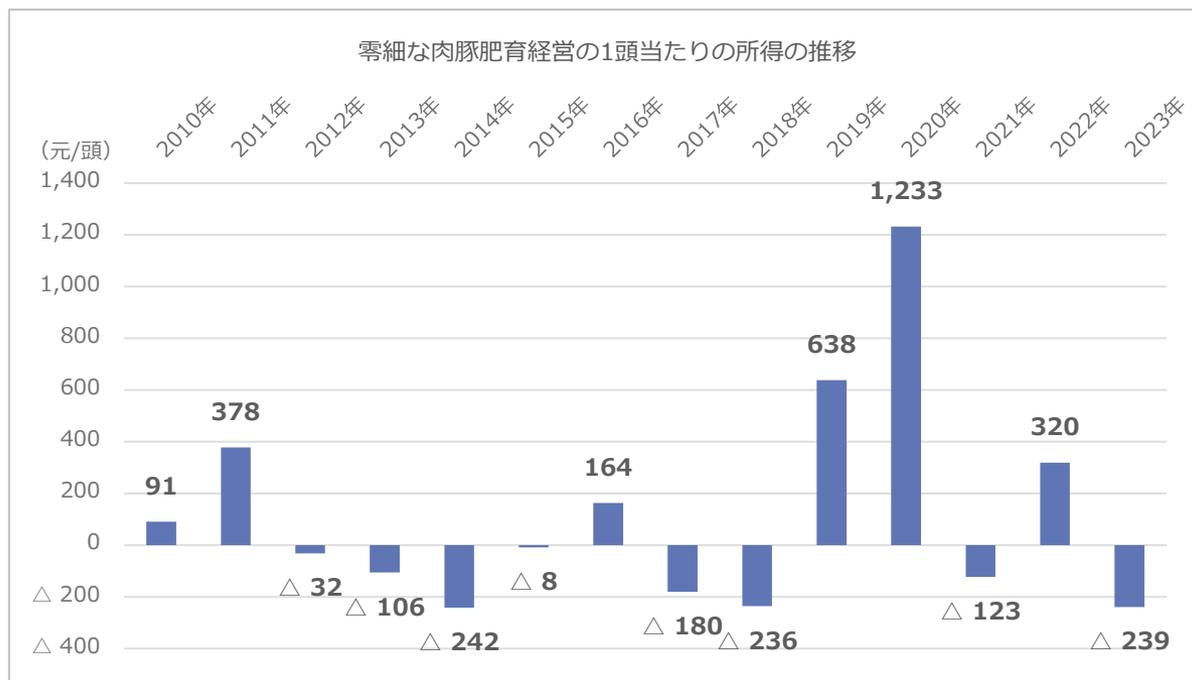
出荷規模別	飼養戸数	構成比
1～49頭	18,792,785	93.50
50～99頭	706,476	3.51
100～499頭	423,810	2.11
500～999頭	95,304	0.47
1,000～2,999頭	53,276	0.27
3,000～4,999頭	14,508	0.07
5,000～9,999頭	8,072	0.04
10,000～49,999頭	4,854	0.02
50,000頭以上	849	0.00
計	20,099,934	100.00

(2) 肉豚肥育経営の収益性

- 中国の養豚経営の収益性と生産費に関する統計によると、年間飼養頭数が30頭以下の飼育規模の生産者は零細経営に分類される。
- 2023年の零細な肉豚肥育経営の1頭当たりの所得はマイナス239元となり、前年の320元から大幅に低下した。これは2010年以降で2番目に低い水準となっている。
- 2018年8月ごろのアフリカ豚熱による国内供給不足の影響で、2019年と2020年の生体取引価格が急速に上昇した。これにより、養豚経営の所得はこの2年間で最も高水準に達した。
- しかし、2021年以降、肉豚や子取り用雌豚の飼養頭数は通常の水準に戻る一方で、肉豚の出荷価格は低下している。その結果、肥育豚1頭当たりの所得も低下している。
- 2010年から2023年までの零細な肉豚肥育経営の1頭当たりの所得推移を見ると、所得の変動が大きく、14年間の間、半数以上の年に赤字経営となっている。

■ 零細な肉豚肥育経営における1頭当たりの収益性の推移（2010年～2023年）

単位：元/頭、%



(注) ①所得率 = 所得 ÷ 全算入生産費 × 100% ②全算入生産費は、地代を含む生産費を指す。

年次	全算入生産費	所得	所得率
2010年	1,250	91	7.3
2011年	1,576	378	24.0
2012年	1,778	△ 32	△ 1.8
2013年	1,853	△ 106	△ 5.7
2014年	1,844	△ 242	△ 13.1
2015年	1,835	△ 8	△ 0.4
2016年	2,051	164	8.0
2017年	2,007	△ 180	△ 9.0
2018年	1,873	△ 236	△ 12.6
2019年	1,980	638	32.2
2020年	2,914	1,233	42.3
2021年	2,709	△ 123	△ 4.5
2022年	2,137	320	15.0
2023年	2,258	△ 239	△ 10.6

(出所) 農業農村部の各種公開資料を整理して作成。

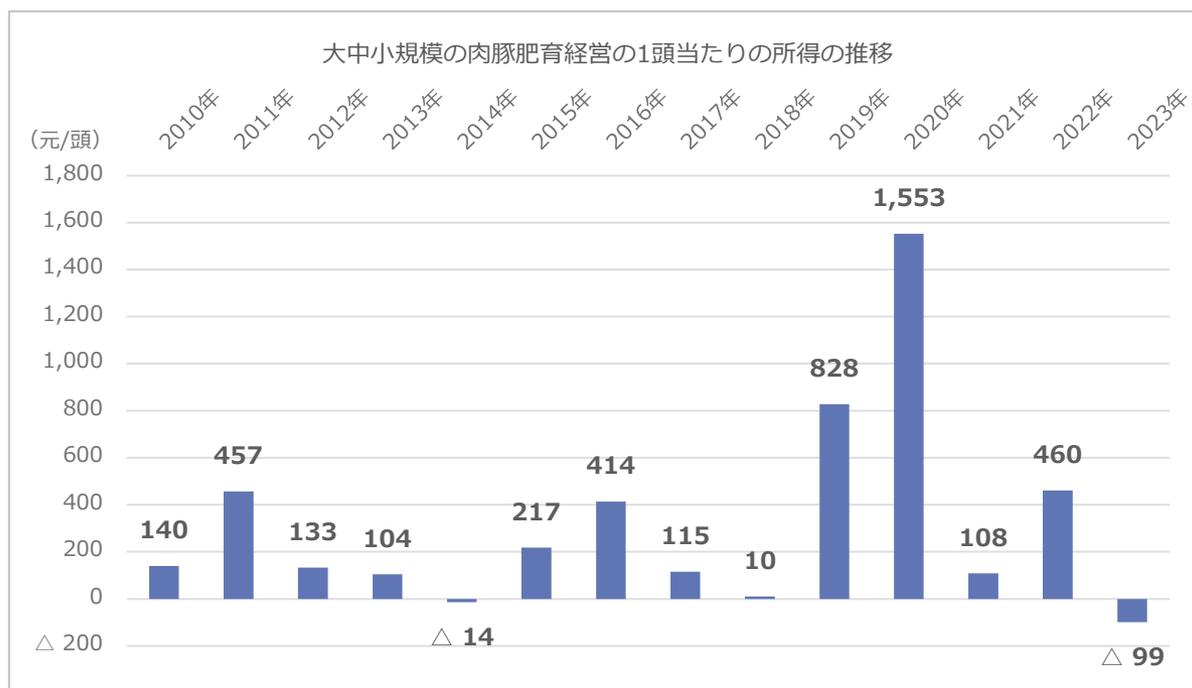
(2) 肉豚肥育経営の収益性

- 中国の養豚経営の収益性と生産費に関する統計によると、年間飼養頭数が30頭を超える飼育規模の生産者は、大規模・中規模・小規模規模の肉豚飼育経営に分類される。
- 2023年の大中小規模の肉豚肥育経営の1頭当たりの所得はマイナス99元となり、前年の460元から大幅に低下し、2010年以降で最低水準に達している。
- 2010年から2023年までの大中小規模の肉豚肥育経営の1頭当たりの所得推移を見ると、年によって変動が大きい

ものの、14年間のうち赤字経営となったのは2年のみである。これは、規模化による生産コストの削減と所得向上のメリットが、零細な肉豚飼育経営に比べて発揮されていることを示している。

■ 大中小規模の肉豚肥育経営における1頭当たりの収益性の推移 (2010年～2023年)

単位：元/頭、%



(注) ①所得率 = 所得 ÷ 全算入生産費 × 100% ②全算入生産費は、地代を含む生産費を指す。

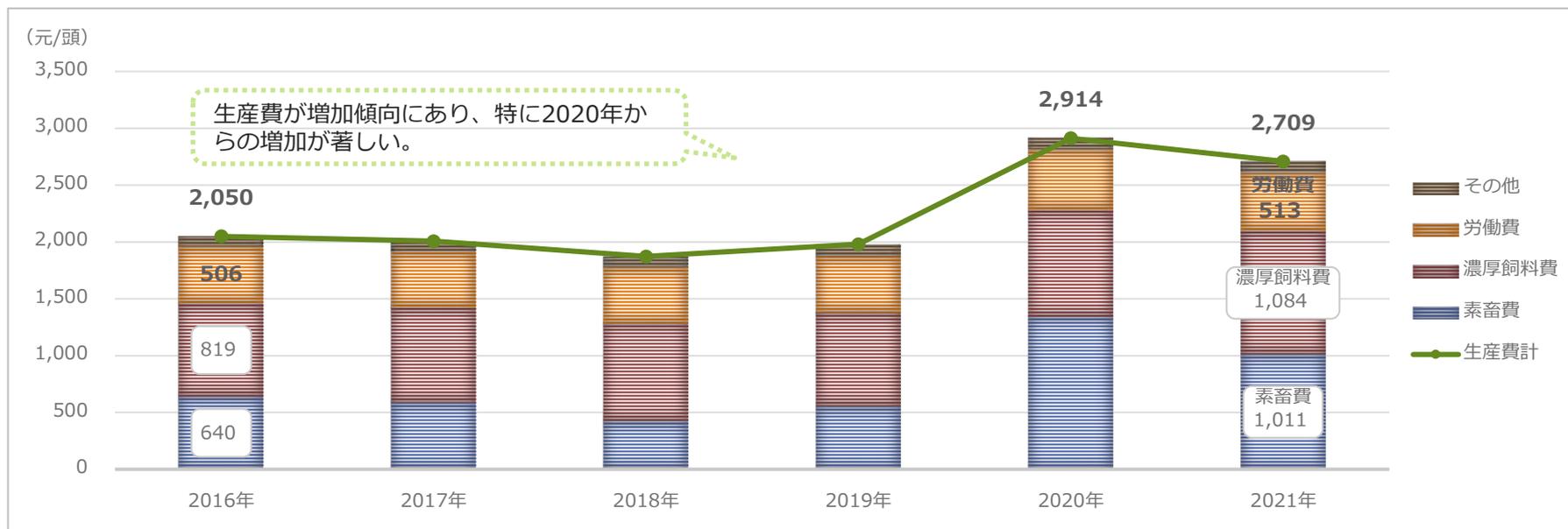
年次	全算入生産費	所得	所得率
2010年	1,170	140	12.0
2011年	1,470	457	31.1
2012年	1,588	133	8.4
2013年	1,617	104	6.4
2014年	1,592	△ 14	△ 0.8
2015年	1,605	217	13.6
2016年	1,810	414	22.9
2017年	1,727	115	6.7
2018年	1,585	10	0.7
2019年	1,797	828	46.1
2020年	2,699	1,553	57.5
2021年	2,488	108	4.3
2022年	2,060	460	22.3
2023年	2,179	△ 99	△ 4.5

(出所) 農業農村部の各種公開資料を整理して作成。

(3) 肉豚肥育経営の生産費

- 零細な肉豚肥育経営（年間飼養頭数が30頭以下の飼育規模）の肥育豚1頭当たりの生産費は増加傾向にある。2016年には2,050元であったが、2021年には2,709元上昇した。
- 生産費は物財費（素畜費、飼料費、水道光熱動力費、医薬品、機具材料費など）と労働費で構成される。2021年の生産費の内訳を見ると、素畜費が37.3%、濃厚飼料費が40.0%、労働費が18.9%を占めている。
- 素畜費は市場の需給によって大きく変動する。素畜の1kg当たりの導入費は、2016年には36.5元、2020年には76.7元、2021年には60.4元と大きく変動した。

■ 零細な肉豚肥育経営における1頭当たりの生産費の推移（2016年～2021年）



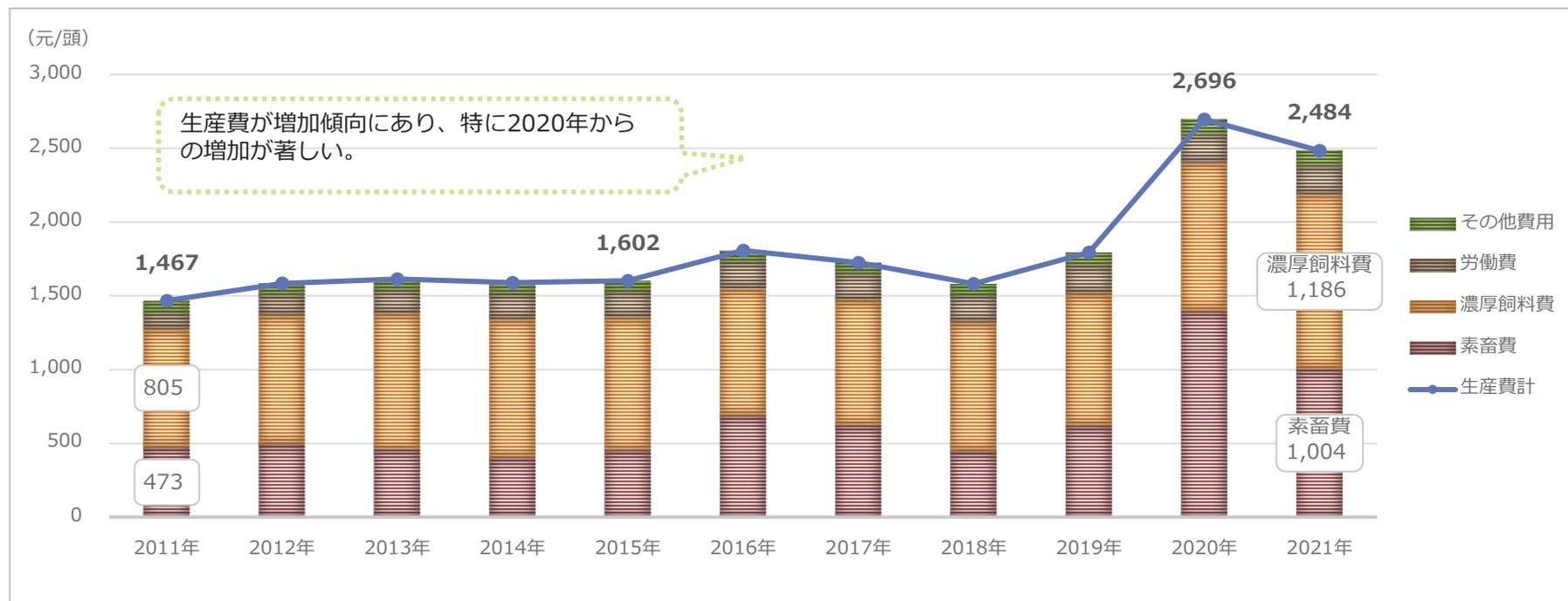
(注) ①「素畜費」は、素畜そのものの価額と、素畜の購入に要した諸経費を合算したものである。自家生産の素畜については、その地域の市価に基づいて評価している。
②濃厚飼料には穀類、豆类、配合飼料、混合飼料、ふすま、大豆かす、飼料添加物などが含まれる。

(出所) 各年次の「全国農産品コスト収益資料編」などを基に作成。

(3) 肉豚肥育経営の生産費

- 大中小規模の肉豚肥育経営（年間飼養頭数が30頭を超える飼育規模）では、肥育豚1頭当たりの生産費が増加している。2011年には1,467元であったが、2021年には2,484元に上昇している。
- 生産費は物財費（素畜費、飼料費、水道光熱動力費、医薬品、機具材料費など）と労働費から構成される。2021年の生産費の内訳を見ると、素畜費が40.4%、濃厚飼料費が47.8%、労働費が7.5%を占めている。
- 大中小規模肉豚肥育経営の労働時間単価に関して、家族労働時間単価は2016年の81.4元/日から2021年に92.2元/日に上昇し、雇用労働時間単価も2016年の92.0元/日から2021年に119.3元/日に上昇している。

■大中小規模の肉豚肥育経営における1頭当たり生産費の推移（2011年～2021年）



(出所) 各年次の『中国畜牧獣医年鑑』などを基に作成。

(1) 主な養豚企業グループ

公開資料によれば、中国において主な養豚企業グループは以下の通りである。

■ 養豚企業グループのランキング（上位20社）（2022年生豚出荷頭数順）

単位：万頭

順位	社名	本社所在地	生豚出荷頭数 (2022年)
1	牧原食品股分有限公司 (Muyuan)	河南省南陽市	6,120
2	温氏食品集団股分有限公司 (WENS)	広東省雲浮市	1,800
3	新希望六和股分有限公司 (New Hope Liuhe)	四川省綿陽市	1,460
4	正大投資股分有限公司 (Chia Tai I)	北京市	1,100
5	双胞胎 (集団) 股分有限公司 (Twins)	江西省南昌市	930
6	江西正邦科技股分有限公司 (Zhengbang)	江西省南昌市	850
7	福建傲農生物科技集団股分有限公司 (Aonong)	福建省廈門市	520
8	四川德康農牧食品集団股分有限公司 (Dekon)	四川省成都市	500
9	広西揚翔股分有限公司 (Yangxiang)	広西自治区貴港市	480
10	北京大北農科技集団股分有限公司 (Dabeinong)	北京市	445
11	天邦食品股分有限公司 (Tech-Bank)	浙江省宁波市	440
12	中糧家佳康食品有限公司 (COFCO Joycome)	北京市	410
13	広東海大集団股分有限公司 (Haid)	広東省広州市	320
14	広西桂墾牧業有限公司 (Guiken)	広西自治区南寧市	300
15	山西大象農牧集団有限公司 (Daxiang)	山西省呂梁市	270
16	唐人神集団股分有限公司 (Tangrenshen)	湖南省株洲市	220
17	天康生物股份有限公司 (Tecon)	新疆烏魯木齊市	205
18	湖南新五豊股分有限公司 (New Wellful)	湖南省長沙市	200
19	桂林力源糧油食品集団有限公司 (liyuan)	広西自治区桂林市	195
20	佳和農牧股分有限公司 (Jiahe)	湖南省長沙市	170

(注) 上表の「生豚出荷頭数」には肉豚、子豚、種豚の頭数が含まれている。

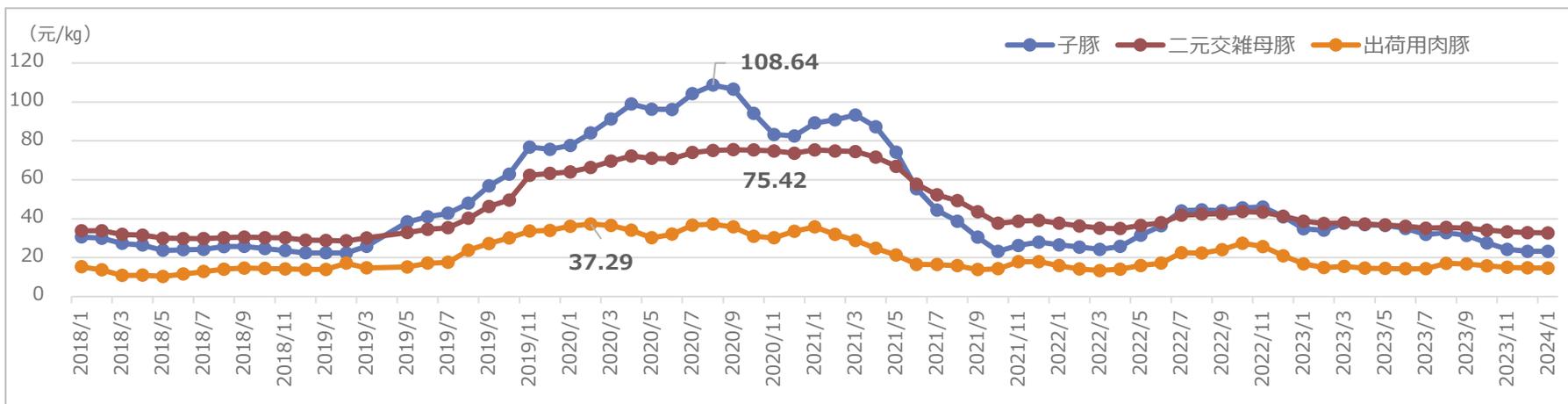
(出所) 各種公開資料を基に作成。

(2) 豚の生産に関連する価格

- 中国の肉豚出荷価格は、子豚や二元交雑母豚の取引価格と連動して変動している。2019年にアフリカ豚熱が発生し、子取り用雌豚の飼養頭数が大幅に減少したため、2020年には子豚の市場価格が最高値に達した。2024年1月には、子豚の取引価格が1kg当たり23元となり、2020年8月のピーク時の価格（1kg当たり108元）の21%までに低下している。
- 下図は、中国の生豚取引市場の周期的な特徴を示している。2019年から2022年にかけて、アフリカ豚熱などの影響で、2019年の肉豚出荷頭数が減少した。その結果、2020年には生豚の平均販売価格が急騰し、1kg当たり34

元に達した。また、2020年には豚の生産能力が徐々に回復していきしたが、初期の生産不足が大きかったため、供給不足状態が続き、価格は高水準を維持していた。2021年には豚の生産能力が基本的に回復し、市場の供給も改善され、生豚の価格は下降傾向にあった。2022年には豚の生産能力が完全に回復し、出荷用肉豚の価格もさらに下がり、年平均で1kg当たり19.5元にとなった。そして、2023年はさらに低下し、年平均で1kg当たり15.4元まで下落した。

■ 子豚・二元交雑母豚・出荷用肉豚の価格の推移（2018年1月～2024年1月）



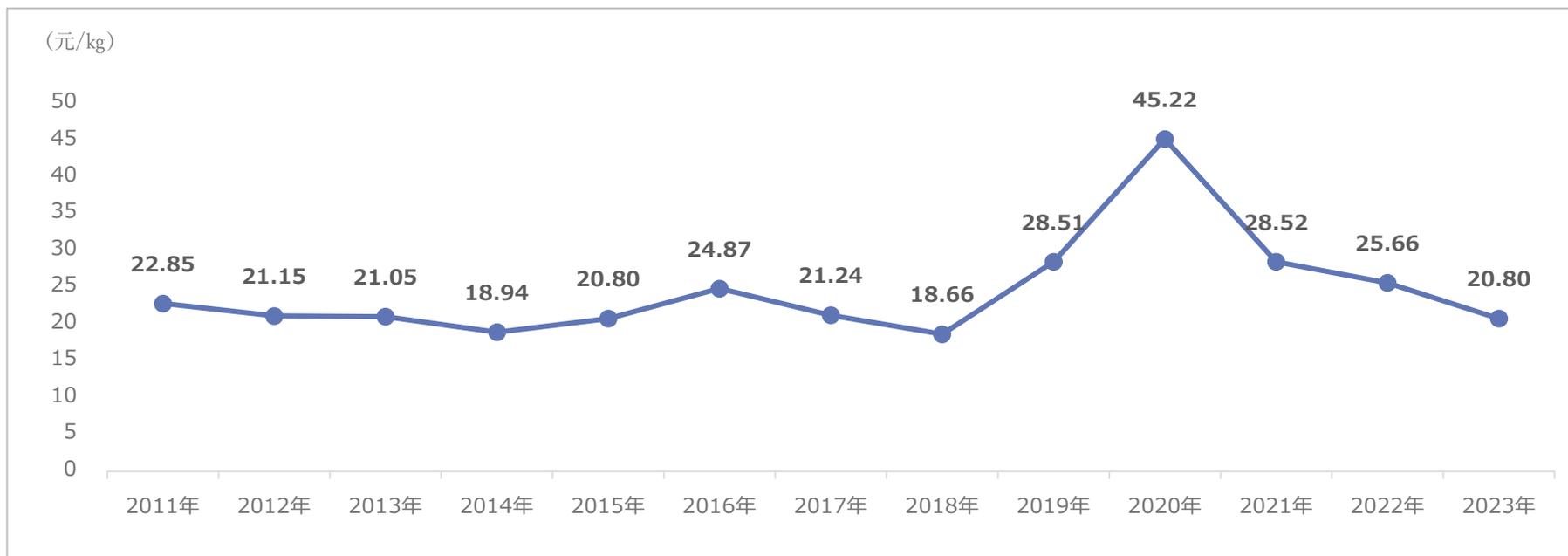
(注) 2018年1月から2020年2月までのデータは月次ではなく、不特定の週次データである。そして、2020年3月から2024年1月までのデータは、各月の週の平均値に基づいている。

(出所) 農業農村部の公開資料のデータを整理して作成。

(2) 豚の生産に関連する価格

- 中国の農業農村部は、全国の200か所の農産物卸市場から収集した豚枝肉の月次平均卸価格を公表している。2023年の豚枝肉の平均卸価格は1kg当たり20.8元で、前年比18.9%低下した。
- さらに、2011年から2022年までの豚枝肉の年間平均卸価格を見ると、中国国内のアフリカ豚熱及び新型コロナウイルス感染症の影響を大いに受けた2020年に豚枝肉の平均卸価格がピークに達し、その後低下傾向にある。

■ 全国200農産物市場における豚枝肉の年平均市場卸価格の推移（2010年～2023年）



(出所) 農業農村部が公開した月次データを基に算出して作成した。

(3) 品種・育種施設

■豚の品種について

- 2021年版の「国家家畜・家禽遺伝資源品種目録」によれば、中国の豚の品種には、在来種（83種）、交雑種（25種）、系統交配種（14種）、海外導入種（6種）、海外導入系統交雑種（2種）が存在している。
- 中国は2009年から豚の遺伝的改良計画を進め、育種体系の構築や繁殖集団の生産性向上、品種改良・新品種育成に力を入れている。2021年には新しいラウンドの「全国生豚遺伝的改良計画（2021～2035年）」が始まり、引き続き赤身肉型の改良や新品種の育成、在来種の選抜育が重要視されている。
- 中央政府が認定した豚の中核育種場が飼養している豚の品種かみると、主には大ヨークシャー種、ランドレース種、デュロック種がある。

■豚の育種場について

- 2021年、中国全土には豚の育種場（雌、雄両方飼養している）が合計4,323施設存在した。その中で、施設数や飼養頭数などの数が最も多いのは広東省や四川省などが挙げられる。
そのほかに、全国で計803か所の種雄豚センターも設置されている。
- 2022年末時点で、中央政府が認定した豚の中核育種場は合計103施設ある。
例えば、牧原食品股分有限公司や赤峰家育種豚生態科技集団有限公司、広東温氏種豚科技有限公司などがその一例。これらの企業は主には大ヨークシャー種、ランドレース種、デュロック種を飼養している。
また、中央政府が認定した豚の中核育種場で在来種を飼養している企業には、
浙江加華種豚有限公司（品種：金華豚）
重慶琪泰佳牧畜禽養殖有限公司（品種：榮昌豚）
などが挙げられる。

(1) 豚肉の輸入量

- 中国は豚肉の生産大国ではあると同時に、消費大国でもある。2000年から2007年までは豚肉の純輸出国であったが、国内供給の変動や欧米主要豚肉輸出国との養豚コストの格差などの理由により、輸入が増加し、2008年以降現在に至るまでは豚肉の純輸入国となっている。特に2018年8月ごろに中国国内でア

フリカ豚熱が発生し、豚の大規模な殺処分が行われたため、国内の豚肉の供給が大幅に不足し、その結果、豚肉の輸入量は2020年にピークに達した。しかし、2021年以降国内の豚肉生産の正常化に伴い、2022年の豚肉の輸入量は174万トンで、2023年は154万トンと低下している。

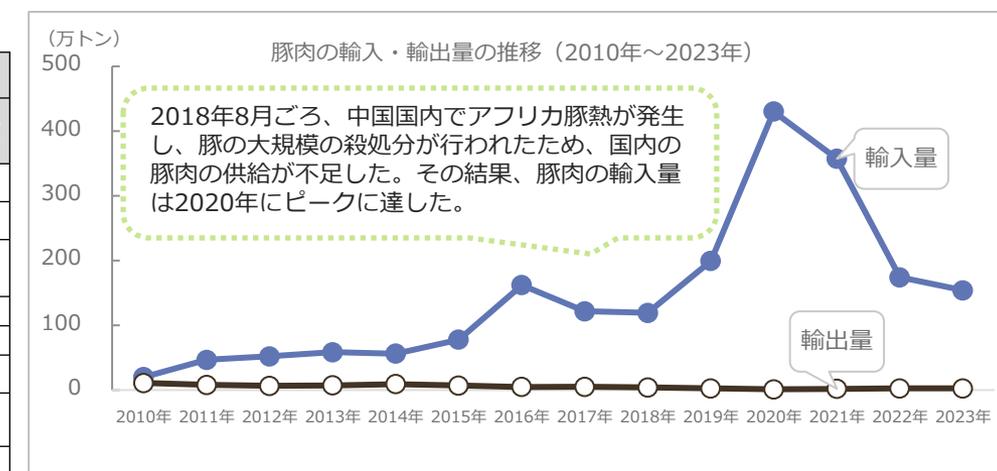
■ 豚肉輸入量の推移 (2010年～2023年)



豚肉の輸入・輸出計算に使用される品目

タリフライン	品名 (仮訳) (日本語)	関税率	
		基本	WTO協定
02031110	子豚の枝肉・半丸枝肉 (生鮮・冷蔵)	70%	20%
02031190	その他の枝肉・半丸枝肉 (生鮮・冷蔵)	70%	20%
02031200	骨付きのもも肉・肩肉及びこれらを分割したものを (生鮮・冷蔵)	70%	20%
02031900	その他の豚肉 (生鮮・冷蔵)	70%	20%
02032110	子豚の枝肉・半丸枝肉 (冷凍)	70%	12%
02032190	その他の枝肉・半丸枝肉 (冷凍)	70%	12%
02032200	骨付きのもも肉・肩肉及びこれらを分割したものを (冷凍)	70%	12%
02032900	その他の豚肉 (冷凍)	70%	12%

(注) この表では経済連携協定 (EPA) の関税率は省略している。



(出所) 中国税関総署のデータベースに基づき作成。



(2) 豚肉の輸入品目

- 2015年から2023年の輸入豚肉のうち、冷凍品は99%を占めた。
- また、2023年のタリフライン別では、「骨付きのもも肉・肩肉及びこれらを分割したもの」が24%、「その他のもの」（部分肉）が76%を占めた。

■タリフライン別の豚肉輸入量の推移（2015年～2023年）

単位：トン

年次	冷凍した豚肉				生鮮または冷蔵した豚肉		輸入量計
	02032110 (子豚の枝肉・半丸枝肉)	02032190 (その他の枝肉・半丸枝肉)	02032200 (骨付きのもも肉・肩肉及びこれらを分割したもの)	02032900 (その他のもの)	02031200 (骨付きのもも肉・肩肉及びこれらを分割したもの)	02031900 (その他のもの)	
2015年	0	456	244,558	532,466	0	25	777,505
2016年	0	1,765	529,880	1,088,521	25	0	1,620,192
2017年	0	384	395,825	820,524	19	5	1,216,757
2018年	0.03	0	348,426	844,380	8	14	1,192,828
2019年	20	1,058	477,597	1,515,487	0	5	1,994,167
2020年	3	3,673	1,054,716	3,238,490	307	4,608	4,301,796
2021年	1	2,836	1,060,036	2,508,381	33	1,320	3,572,606
2022年	0.64	0	479,815	1,262,610	0	5	1,742,431
2023年	0	0	364,155	1,176,470	0	6	1,540,631

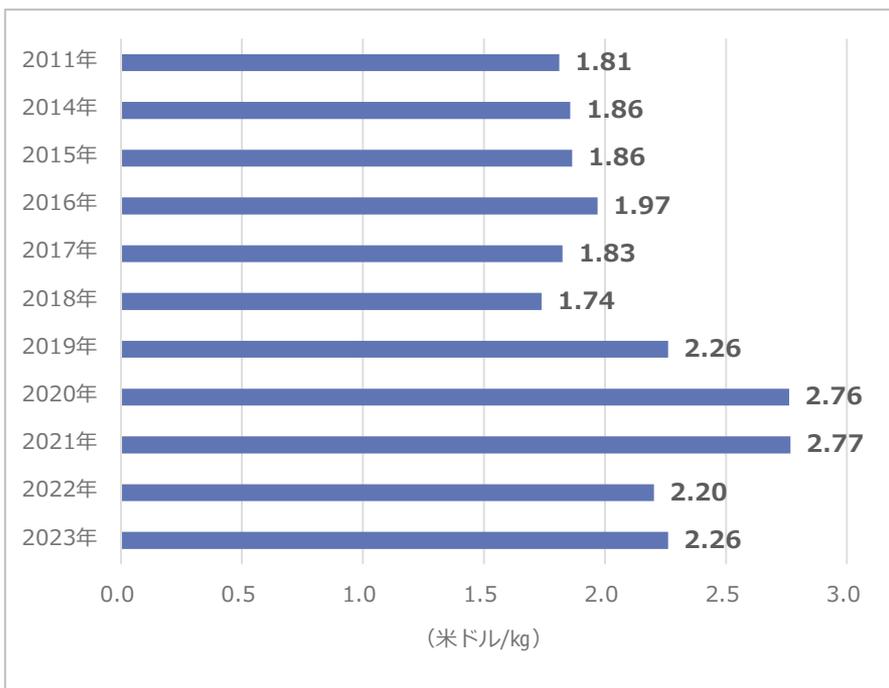
(注) 2015年から2023年までの期間で、タリフライン「02031110」に分類される子豚の枝肉・半丸枝肉（生鮮・冷蔵）及び「02031190」に分類されたその他の枝肉・半丸枝肉（生鮮・冷蔵）に関する輸入実績は確認されなかった。

(出所) 中国税関総署のデータベースに基づき作成。

(3) 豚肉の輸入価格

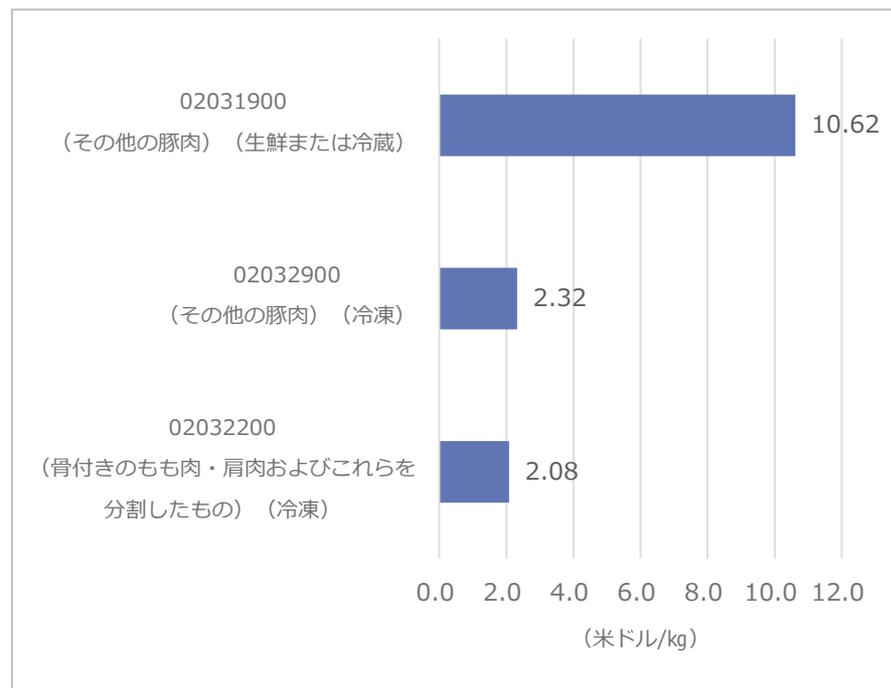
- 中国における豚肉の平均輸入価格（CIF、運賃・保険料込み価格）は、国内生産量の変動に大きく影響されている。
- 2019年から2021年までの3年間は、2018年ごろのアフリカ豚熱の発生と2019年からの新型コロナウイルス感染症の流行による国内豚肉生産不足が影響し、輸入豚肉の平均単価が上昇した。特に2021年は1kg当たり2.76米ドルに達し、2011年に比べて53%も上昇した。しかし、2022年は前年比約20%減の2.2米ドル、2023年は前年比2.7%増の2.26米ドルとなっている。
- 2023年の豚肉の輸入品目は3つある。そのなかで、輸入量が最も多い「その他の豚肉（冷凍）」の平均単価は1kg当たり2.32米ドルである。

■ 豚肉の平均輸入価格の推移（2015年～2023年）



(出所) 中国税関総署のデータベースに基づき作成。

■ タリフライン別豚肉の平均輸入価格（2023年）

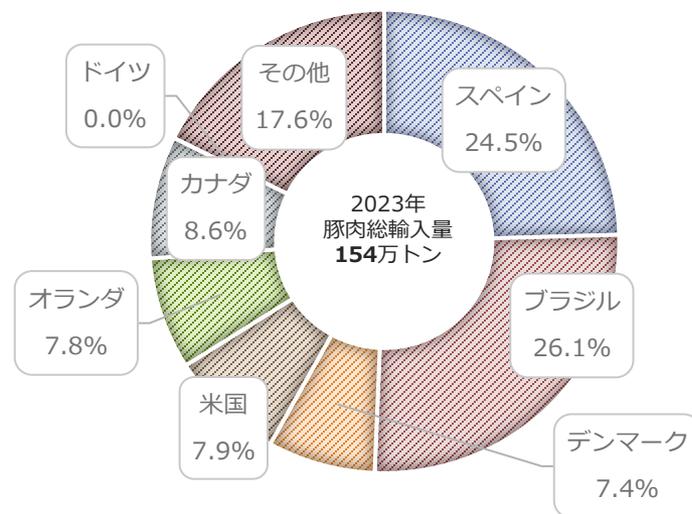
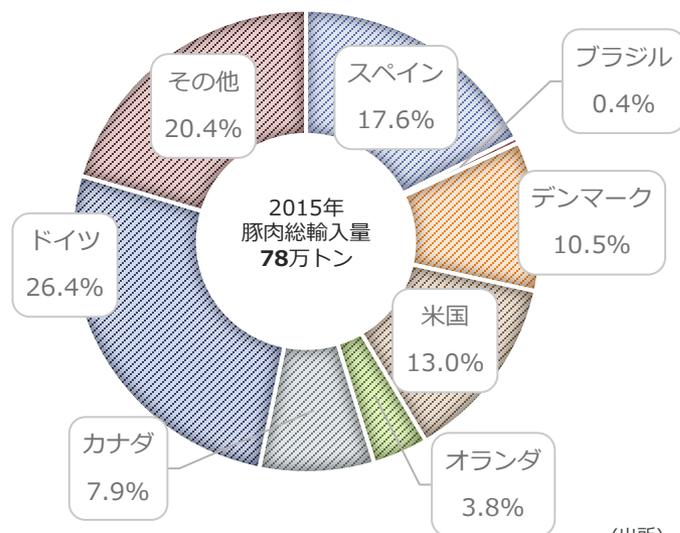


(4) 豚肉の輸入相手国

- 2015年には中国の豚肉輸入相手国は14か国であったが、2022年には18か国、2023年には17か国となった。
- 2022年及び2023年の豚肉輸入相手国を見ると、数量・金額の両面で最大の輸入相手国はスペインとブラジルで、この2か国が中国の豚肉輸入の50%以上を占めている。
- 2015年、2016年、2018年に豚肉の最大な輸入相手国であるドイツは、2020年までに比較的重要な輸入相手国である地位を維持していたが、ドイツでのアフリカ豚熱の影響により、2021年には豚肉の輸入量が0.2万トンと激減し、2022年及び2023年にはゼロになった。
- 豚肉の輸入相手国を地域別に見ると、2015年にはヨー

ロッパが全体の75%、北米が21%、南米が4%であったが、2022年にはヨーロッパが57%、南米が28%、北米が15%となり、南米からの輸入割合が大幅に増加した。また、2023年にはヨーロッパが52%、南米が32%、北米が17%となり、南米からの輸入割合が引き続き増加している。

■ 豚肉の主要な輸入相手国の変化（数量ベース）（2015年と2023年）



(出所) 中国税関総署のデータベースに基づき作成。

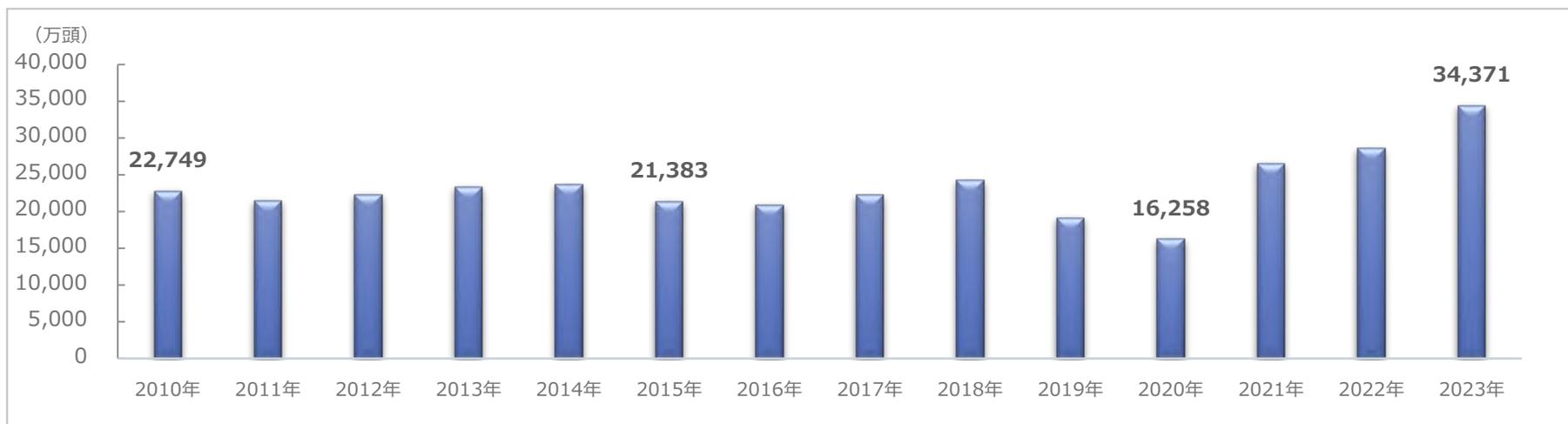
(1) 豚のと畜状況

- 中国では、「豚と畜管理条例」に基づき、豚のと殺・解体事業は許可制となっている。
- 現地ヒアリングによれば、2023年末時点で許可された豚のと畜場は約5,550施設あり、そのうち年間と畜頭数が2万頭以上の施設は約2,000施設弱で、全体の約35%を占めている。
- 農業農村部は、全国の大中規模豚と畜場（年間と畜頭数が2万頭以上）に関するデータを公表している。
2023年の大中規模豚と畜場による豚のと畜頭数は34,371万頭で、前年同期比で20.4%増加している。
- 2019年から2020年にかけて、中国国内でのアフリカ豚

熱や新型コロナウイルスの感染拡大により、肉豚の出荷頭数減少やと畜場の稼働率低下が主な要因で、と畜頭数は減少した。

- 中国政府は家畜、家禽のと畜場の規模化経営に注力しており、「中国産業構造調整目録」（2019年版）では、年間で豚のと畜処理能力が15万頭以下の新規プロジェクトの建設は基本的に制限されている。

■ 大中規模豚のと畜場における豚と畜頭数の推移（2010年～2023年）



(出所) 農業農村部のデータに基づき作成。

(2) 豚肉の流通状況

- 現地ヒアリングによれば、2023年において大中規模の豚と畜場（年間と畜頭数が2万頭以上の施設）でと畜処理された豚肉は、流通形態別では常温生鮮豚肉が65%、冷蔵生鮮豚肉が22%、冷凍豚肉が8%という割合であった。
- 近年、冷蔵生鮮豚肉の割合が増加しているが、一方で、常温の肉、イコール新鮮という認識がまだ根強く、流通している常温生鮮豚肉がまだ全体の6割以上を占めている実態がある。
- 2019年以降、養豚大手の企業である牧原食品股分有限公司や

温氏食品集団股分有限公司、新希望六和股分有限公司などが、と畜処理加工事業に重点を置く傾向が顕著になってきた。この背景には2018年のアフリカ豚熱が発生し、中国の養豚産業の経営方式や事業構造に大きな影響が及んだことが挙げられる。生体豚の販売地域が制限され、政府が防疫措置の強化と現代的なと畜産業を推進する方針を背景に、多くの企業が「生体豚の輸送」から「豚肉の輸送」への移行を進めている。

■ 豚肉の流通企業事例

社名	2022年の会社の総売上高に占める主要事業・製品の割合
牧原食品股分有限公司 (www.muyuanfoods.com)	養豚95.9%、と畜・豚肉加工品11.8%、飼料原料4.4%
新希望六和股分有限公司 (www.newhopeagri.com)	飼料56.0%、養豚養鶏等28.6%、食肉加工7.7%
天邦食品股分有限公司 (www.tianbang.com)	養豚72.4%、食品加工23.0%、飼料4.5%
中糧家佳康食品有限公司 (www.cofcojoycome.com/)	生鮮豚肉36.7%、養豚35.1%、輸入食肉製品22.3%、食肉加工5.9%
天康生物股分有限公司 (www.tcs.com.cn)	飼料33.1%、と畜・食肉加工製品22.7%、養豚6.3%、トウモロコシ買上業務17.8%、動物用ワクチン 5.5%、たんぱく油脂加工10.5%
河南双滙投資發展股分有限公司 (www.shuanghui.net)	と畜業務（生鮮食肉製品）53.5% 食肉製品加工業務（包装食肉製品）43.5%
浙江華統肉製品股分有限公司 (www.huatongmeat.com)	と畜・食肉加工91.5%、養豚・養鶏5.2%
山東竜大美食股分有限公司 (www.longdameishi.com)	と畜・処理加工74.7%、食品加工10.3%、輸入貿易10%
山東得利斯食品股分有限公司 (www.delisi.com.cn)	冷蔵・冷凍食肉52.0%、預製菜（調理済み半製品・完成品）20.9%、牛肉輸入販売11.6%、低温食肉加工製品（ハム等）9.2%
広東広弘控股股分有限公司 (www.ghkg000529.com)	冷凍食肉65.1%、書籍発行25.3%、冷凍倉庫の運営2.8%、養鶏養豚2.7%、豚肉・鶏肉2.2%

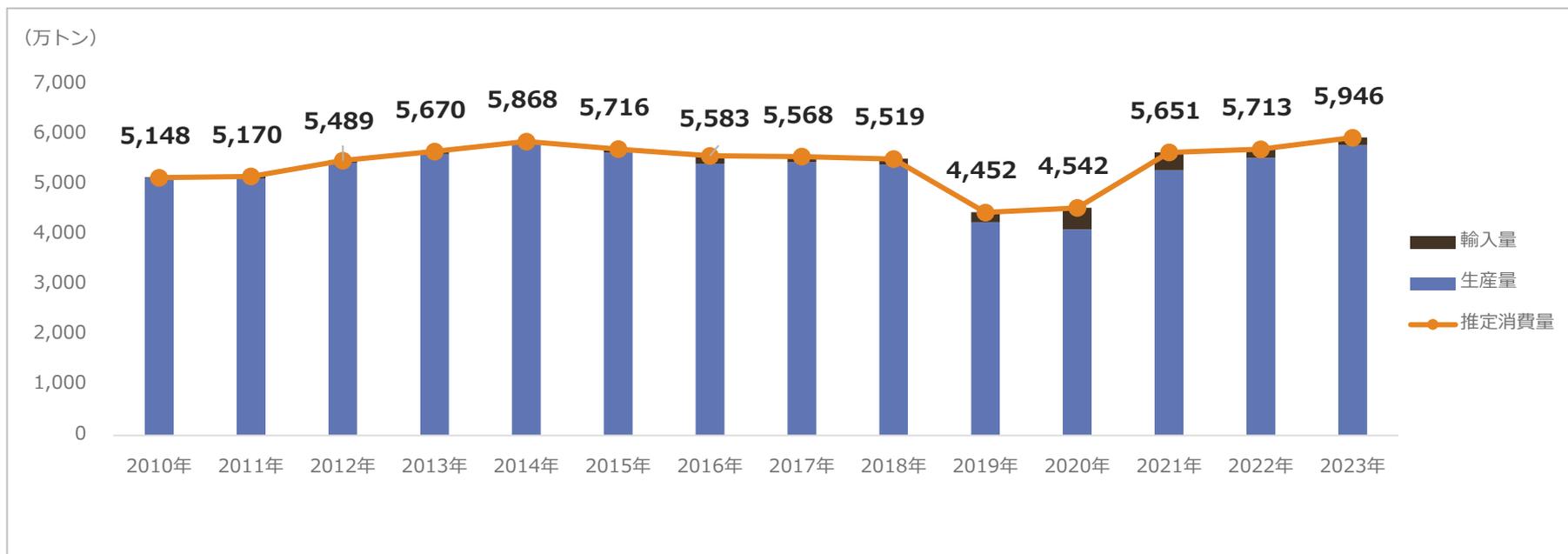
(出所) 各種公開資料（上場企業のアニュアルレポートなどを整理して作成した。）

(3) 豚肉の推定消費量

- 2023年、中国における豚肉の推定消費量は5,946万トンであり、前年比で4.1%増加した。
- 2019年と2020年、中国国内のアフリカ豚熱の発生や新型コロナウイルス感染症の影響により、豚肉の国内生産量が一時的に減少し、消費量も減少した。ただし、2021年以降、豚肉の生産能力が回復し、通常の水準にまで回復した。特に2023年の豚肉生産量は2010年以降で最も高く、中

国国内の豚肉の推定消費量も2023年に最も高い水準となった。

■ 豚肉の推定消費量の推移（2010年～2023年）



(注) 推定消費量は、国内生産量と輸入量の合計から輸出量を差し引いた量を指す。

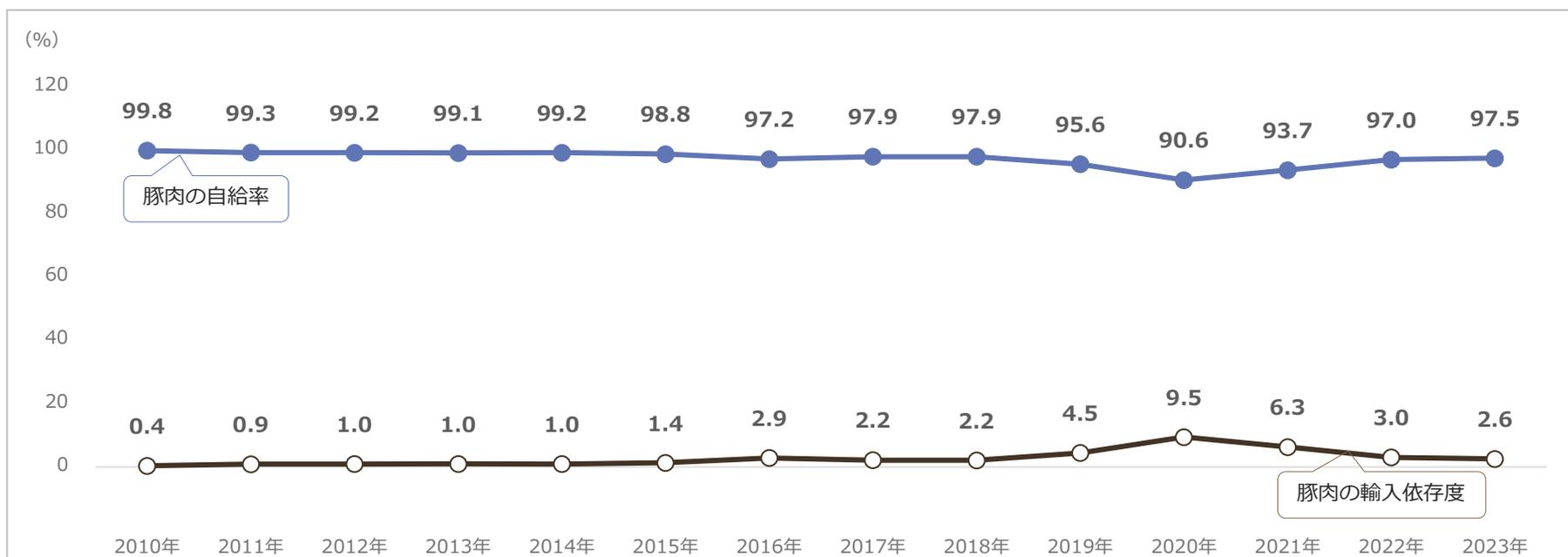
(出所) 矢野経済研究所が作成。

(4) 豚肉の輸入依存度

- 2023年の豚肉推定消費量は5,946万トンで、そのうち国内生産量が5,794万トン、輸入量が154万トンであった。この結果、豚肉の自給率は97.5%であり、輸入依存度は2.6%であった。
- 過去の豚肉輸入の動向を見ると、2020年及び2021年の一時的な状況を除いても、輸入依存度が増加している傾向が見られる。
しかし、今後は食肉消費構造の変化や人口の減少などの

要因により、豚肉の消費量が減少すると予測されている。2023年4月に公表された「中国農業展望報告」によると、2032年には豚肉の消費量が減少し、その年の豚肉輸入依存度が2.1%になるとの予測が出ている。

■ 豚肉の輸入依存度の推移 (2010年～2023年)



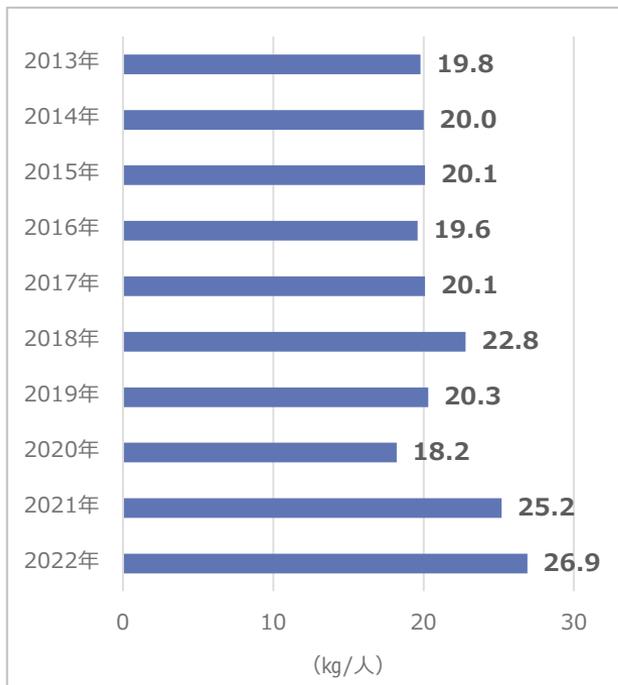
(出所) 矢野経済研究所が作成。

(5) 豚肉の1人当たりの家計消費量

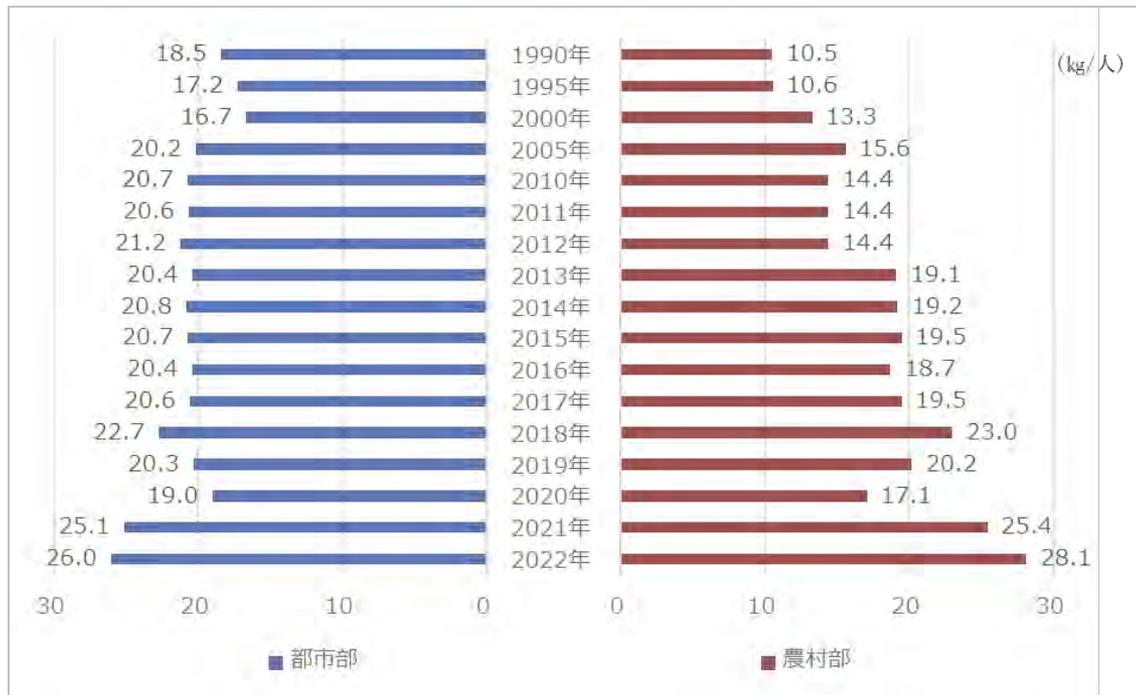
- 2022年の中国における豚肉1人当たりの家計消費量（購入量）は26.9kgで、前年比で6.7%増加している。豚肉は食肉全体（1人当たり46.3kg）のうち58.1%を占め、最も多い肉類である。
- 2013年から2022年の豚肉の1人当たり家計消費量は、年平均成長率（CAGR）3.5%で増加している一方、食肉に占める割合は60.4%から58.1%と低下傾向にある。
- 2022年の全国の豚肉家計消費量は、都市部が1人当たり

26.0kg、農村部が28.1kgで、農村部のほうが2.1kg多い。この要因は、都市部の一部住民や所得の高い世帯が牛肉や羊肉の消費を増やしたためと考えられる。

■ 豚肉の1人当たり家計消費量の推移（2013年～2022年）



■ 都市部・農村部別の豚肉家計消費量の推移（2013年～2022年）



(出所) 各年次の「中国統計年鑑」のデータを整理して作成。

(1) 豚肉需給の長期予測

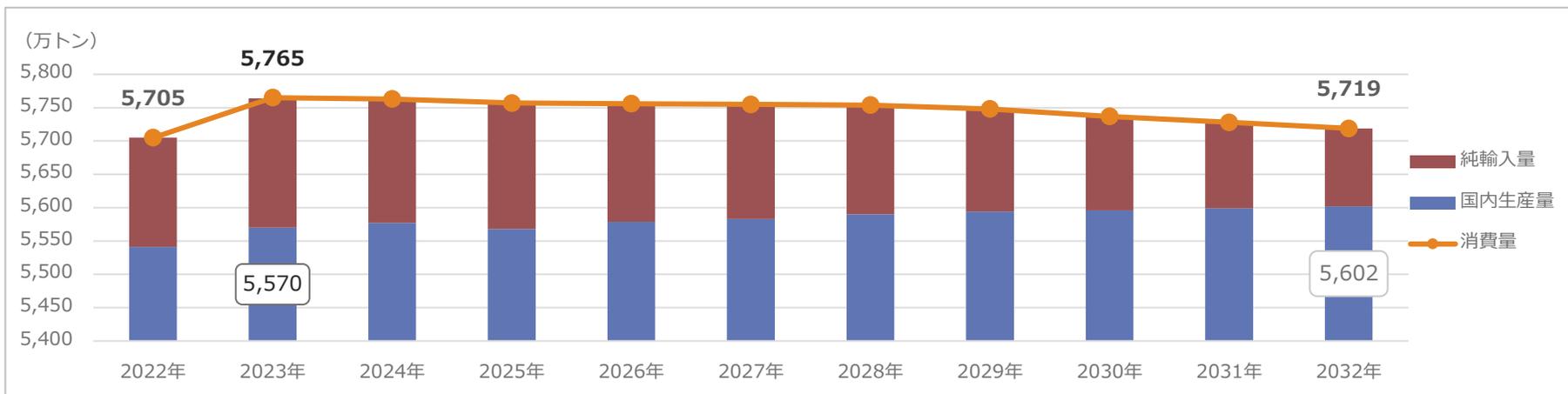
- 2023年4月に農業農村部市場事前予報専門家委員会が発表した「中国農業展望報告」によると、中国の豚肉生産量は2023年から2032年までの9年間、年平均成長率0.06%でわずかに増加し、5,570万トンから5,602万トンに達すると予測されている。
- 一方、中国の人口は今後マイナス成長傾向が続くと予想されており、長期的には豚肉の消費量も減少していく可能性が高い。同様に、豚肉の消費量は2023年の5,765万トンから2032年には5,719万トンに減少し、9年間のCAGRはマイナス0.10%と予測されている。
- この予測に基づくと、中国の豚肉市場は今後以下のような変化が予想される。
 - 生産量の微増：生産量は今後も増加傾向にあるものの、

その成長率は非常に低い。

○消費量の減少：人口減少の影響を受け、消費量は徐々に減少していく。

○需給関係の変化：生産量の微増と消費量の減少により、需給関係は徐々に緩和していく。

■ 中国の豚肉の需給予測（2022年～2032年）



(注) ①消費量 = 国内生産量 + 純輸入量 (輸入量 - 輸出量) ②2022年のデータは実績値であり、2023年から2032年までのデータは予測値。

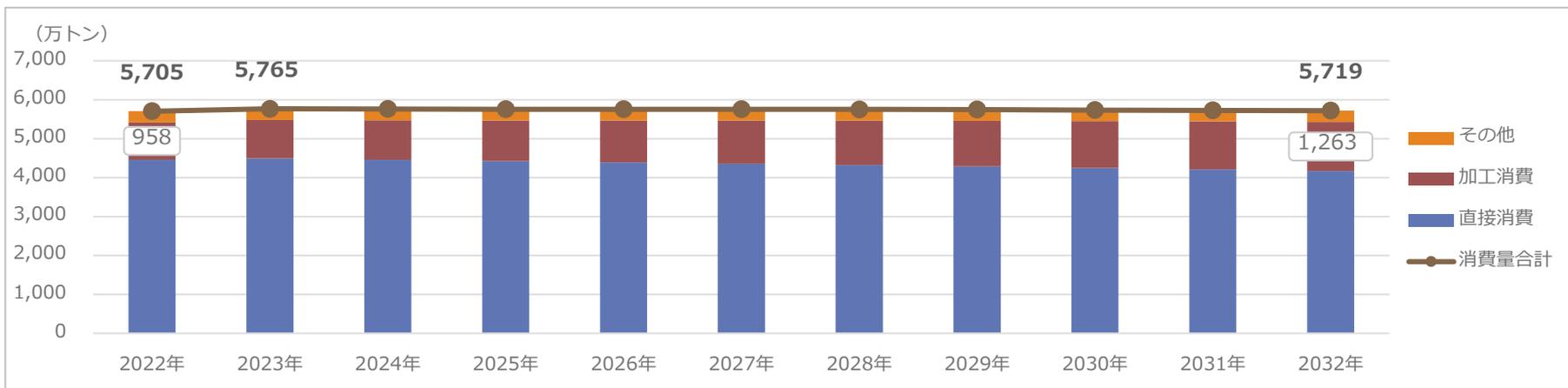
(出所) 「中国農業展望報告（2023年～2032年）」に基づき作成。その展望報告は2023年4月に農業農村部市場事前予報専門家委員会によって公表された。

(2) 豚肉消費構造の長期予測

- 豚肉の消費量は、大きく3つに分類される。
 - 直接消費：生鮮の牛肉（骨付豚肉が含まれる）の消費
 - 加工消費：加熱加工品や調理済み、または半調理済みの豚肉加工製品などの消費
 - その他：直接消費及び加工消費以外の消費、ならびにと畜、加工、流通などの過程での損失量
- 今後、豚肉全体の消費が減少する中で、加工消費は増加すると予測されている。2023年から2032年の期間において、加工消費量は985万トンから1,263万トンに増加し、9年間の年平均成長率（CAGR）は2.8%と予測されている。
- 豚肉加工消費量の増加には、コールドチェーン物流の発展やネット販売、即配の普及などの要因が寄与している。

これらの要因により、便利さ、時短性、料理しやすさなどのニーズが高まっており、豚肉を食材とされる調理済みや半調理済みの「預製菜」の製造が拡大していると考えられる。

■ 中国の豚肉消費構造予測（2022年～2032年）



(注) 2022年のデータは実績値であり、2023年から2032年までのデータは予測値。

(出所) 「中国農業展望報告（2023年～2032年）」に基づき作成。その展望報告は2023年4月に農業農村部市場事前予報専門委員会によって公表された。